

博物館等におけるアイヌの人々の遺骨及びその副葬品の 保管状況等に関する調査結果

平成28年11月
文 部 科 学 省

1. 調査の目的

アイヌ政策推進会議政策推進作業部会における審議を踏まえ、博物館等を対象に調査を実施した。

2. 調査の時期

平成27年8月に調査票を各博物館等へ発出し、平成27年12月25日を回答期限とした。その後の現地調査等の結果を踏まえて精査を行い、平成28年11月4日現在の状況を取りまとめた。

3. 調査の対象

国立博物館、都道府県・市町村立博物館及び民間の博物館等施設(5,558館)

※博物館のうち、動物園、植物園、動植物園、水族館は除いた。野外博物館については、北海道内のみ調査を実施。

※北海道については、アイヌ関係資料を収集、保管している施設も調査を実施。

※国公立大学、公私立短期大学及び大学共同利用機関法人に附属する博物館は除いた。(「大学等におけるアイヌの人々の遺骨の保管状況調査」において調査済み。)

4. 遺骨を保管している博物館等の数と遺骨の数

- ・遺骨を保管している博物館等の数は12施設である。

(北海道博物館、市立函館博物館、網走市立郷土博物館、苫小牧市美術博物館、室蘭市民俗資料館、釧路市埋蔵文化財調査センター、ところ埋蔵文化財センター、いしかり砂丘の風資料館、豊浦町中央公民館、上之国館調査整備センター、伊達市噴火湾文化研究所、東京国立博物館)

- ・個体ごとに特定できた遺骨は76体である。

うち、個人が特定できる遺骨はない。

- ・個体ごとに特定できなかった遺骨が27箱に納められている。

5. 博物館等が保管に至った時期・経緯（個体ごとに特定できた76体）

（1）時期

昭和29年から平成26年までの期間に保管に至った遺骨が74体（約97%）ある。また、保管に至った時期が不明の遺骨が2体（約3%）ある。

（2）経緯

地方公共団体等による発掘調査により出土した遺骨が67体（約88%）ある。また、寄贈等による遺骨7体（約9%）、博物館等が保管に至った経緯が不明の遺骨が2体（約3%）ある。

6. 発掘・発見された経緯等（個体ごとに特定できた76体）

（1）経緯

地方公共団体等による発掘調査により出土した遺骨が67体（約88%）ある。また、発掘・発見された経緯が不明の遺骨が9体（約12%）ある。

（2）発掘・発見主体

地方公共団体等が発掘・発見した遺骨が65体（約85%）、個人が7体（10%）、発掘・発見した主体が不明の遺骨が4体（約5%）ある。

（3）発掘・発見された場所

北海道が71体（約93%）あり、発掘・発見された場所が不明な遺骨が5体（約7%）ある。

7. 博物館等に保管されている遺骨の状況（個体ごとに特定できた76体）

（1）遺骨の部位

全身骨が49体（約64%）、頭骨が15体（約20%）、四肢骨等が4体（約5%）、頭骨・四肢骨の一部6体（約8%）その他（歯など）が2体（約3%）ある。

（2）遺骨の帰属年代

江戸時代以前の遺骨が63体（約83%）あり、江戸時代頃から明治時代の遺骨が3体（約4%）ある。帰属年代が不明の遺骨が10体（13%）ある。

(3) 副葬品の有無

副葬品があることが確認できた遺骨は64体（約84%）ある。

(4) 展示の有無

展示されている遺骨はない。副葬品については、一部展示されているものがある。

(5) 遺骨の保管方法

木製の箱に保管されている遺骨が19体（約25%）あり、紙製の箱に保管されている遺骨が44体（約58%）、プラスチック製の箱に保管されている遺骨が13体（17%）ある。

(6) 文化財の認定の有無

文化財の認定の有る遺骨が62体（約82%）あり、無い遺骨が14体（約18%）ある。

8. 個体ごとに特定できなかった27箱について

(1) 博物館等が保管に至った時期・経緯

①時期

昭和23年から平成6年までの期間の20箱（約74%）がある。また、博物館等が保管に至った時期が不明の7箱（約26%）がある。

②経緯

地方公共団体等による発掘調査により出土した遺骨が2箱（約8%）、寄贈等による遺骨が6箱（約22%）、その他が6箱（約22%）、博物館等が保管に至った経緯が不明の遺骨が13箱（約48%）ある。

(2) 発掘・発見された時期・経緯等

①時期

戦前において発掘・発見された遺骨が7箱（約26%）あり、戦後において発掘・発見された遺骨が12箱（約44%）ある。また、発掘・発見された時期が不明の遺骨が8箱（約30%）ある。

②経緯

工事や地質調査等に伴う遺骨が5箱（約19%）、発掘調査の結果発見

された遺骨が6箱(約22%)あり、不時発見された遺骨が1箱(約4%)ある。発掘・発見された経緯が不明の遺骨が15箱(約55%)ある。

③発掘・発見主体

地方公共団体等が発掘・発見した遺骨が2箱(約7%)、個人が2箱(約7%)、その他が7箱(約26%)、発掘・発見した主体が不明の遺骨が16箱(約60%)ある。

④発掘・発見された場所

北海道が16箱(約59%)あり、千島列島が5箱(約19%)、樺太(サハリン)が1箱(約4%)、発掘・発見された場所が不明の遺骨が5箱(約18%)ある。

(3) 博物館等に保管されている遺骨の状況

①遺骨の部位

全身骨が2箱(約7%)、頭骨が16箱(約60%)、四肢骨等が3箱(約11%)、その他(歯など)が6箱(約22%)ある。

②遺骨の帰属年代

江戸時代以降が2箱(約7%)、江戸時代頃から明治時代の遺骨が7箱(約26%)ある。帰属年代が不明の遺骨が18箱(約67%)ある。

③副葬品の有無

副葬品があることが確認できた遺骨が9箱に納められている。地方公共団体により文化財に認定された出土品である副葬品はない。

④展示の有無

展示されている遺骨及び副葬品はない。

⑤遺骨の保管方法

木製の箱に保管されている遺骨が16箱(約60%)、紙製の箱に保管されている遺骨が9箱(約33%)、プラスチック製の箱に保管されている遺骨が2箱(約7%)ある。

⑥遺骨の文化財への認定の有無

地方公共団体により文化財に認定された出土品である遺骨はない。

施設名	個体ごとに特定できた遺骨		個体ごとに特定できなかった遺骨
		うち、個人が特定できる遺骨	
北海道博物館	7体		
市立函館博物館			25箱
網走市立郷土博物館	2体		
苫小牧市美術博物館	2体		
室蘭市民俗資料館	7体		
釧路市埋蔵文化財調査センター	7体		1箱
ところ埋蔵文化財センター	1体		
いしかり砂丘の風資料館			1箱
豊浦町中央公民館	1体		
上之国館調査整備センター	5体		
伊達市噴火湾文化研究所	43体		
東京国立博物館	1体		
計 12施設	計 76体		計 27箱